



大垣教区

坊守会だより

第25号



2018年8月1日発行

[発行所] 岐阜県大垣市伝馬町11

真宗大谷派 大垣教務所内 大垣教区坊守会



夏の子ども お寺の夏



お寺が御門徒さんの信心に支えられているのは勿論のことですが、お寺は御門徒さんだけに門を開いているわけではありません。とりわけこの夏の時期、蝉取りの子に始まって、ラジオ体操、正信偈の練習、と地域の子どもたちが境内に、お寺堂にとやってきて「お寺さん」、「お経さん」と言ってくれることはうれしい限りです。



新年度を迎えて



大垣教務所長

譽田和人

新しい年度を迎え、坊守の皆さまにはご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より大垣教区の諸活動にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私が大垣に赴任して早くも一年が経ちました。この間は右往左往の毎日でしたが、一番の変化は二十五年ぶりに妻と二人の生活になったこととあります。手元から離れて行った息子達の心配が尽きた訳ではありませんが、長年連れ添ってきた妻と二人きりの生活は右往左往の繰り返し。子育てを言い訳にお互いから目を逸らしてきたことを実感しております。

夕飯になるとテレビのリモコンに伸びる手を抑えて食事をします。「何を話そうかなァー」と不自然な空気が漂うのであります。

「ねんごろ」という言葉は丁寧の意味で使われますが、木の根が絡まっている様が語源です。根と根が絡まるようにお互いが離れず生きることを。転じて、離れていてもいつも眼差しを向け他を気遣うことに通じ

ます。縁あって夫婦、親子になり暮らしても、困りごとにあたふたして目の前の人に眼差しを向けることの難しさを実感します。心配とて、相手のことではなく自分の段取り、都合が先にあり、なかなかやっかいなものでもあります。

当たり前すぎて今さら誰も教えてくれないことを「一周まわって知らない話」として紹介するテレビ番組があります。今さらながらの「へえー」が売りなのですが、私はいえれば四分の一世紀まわって気づく自分の現実に別院の御朝事で拝聴する御文が身にこたえます。これは大垣に来た御利益

でしょう。

お寺に生まれた方、嫁いで来られた方、坊守としての背景はそれぞれですが、出遭いの縁は不思議なものです。たまたまの一度の出遭いが一生に亘る人生を描いていくことになる。不思議としか言いようがありません。子どもの時は食事は食事はテレビを消すように親にきつくいわれましたが、今ごろその意味がしみじみ想われます。テレビをつけない食事はなかなか味なものですよ。みなさん、ねんごろに暮らしておられますか。

新年度のご挨拶とさせていただきます。

青少幼年教化事業の趣旨

大垣教区教化委員会事業部

時下、教区内坊守各位におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より、青少幼年教化事業に格別のご理解、ご協力を賜っておりますこと衷心より厚く御礼申し上げます。大垣別院が500人を超える親子であふれた「ごぼさん子ども夏まつり」や約200人の親子の元気なお勤めとお餅つきでにぎわった「ごぼさん子ども報恩講」では、お忙しい中、坊守会の皆さまに様々なご協力をいただきました。重ねて御礼を申し上げます。

青少幼年教化事業はその他にも、「ごぼさん子ども花まつり・誕生児初参り式」や別院子ども会である毎月の「寺子屋ゴボちゃん」、ゲームや救急救命など子どもに関わることで、青少幼年スタッフの学びを深める「スタッフ研修会」、お寺の子ども会の開催・設置の立ち上げをスタッフを派遣する「子ども会立ち上げサポート事業」などの事業を青少幼年教化スタッフが中心となり行っております。企画・準備・実施と携わり、楽しみや課題を共有し交流することが若手スタッフの学びとなり、地域社会における私たちのお寺という場を積極的に活用し、教えに親しみをもち触れる機会にもつながって欲しいという願いのもと行っております。今後とも、変わらぬご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

合 掌

坊守連盟研修会報告

坊守研修会 四月十一〜十三日

第四組 慶福寺 田中ひとみ

「現代社会の中で、寺に生きる人間として、私一人に願われている課題を共に証したい」の開催趣旨のもと、「いま 寺に生きる〜問いととも歩む生活を〜」というテーマで、全国からの七十九名の参加者と共に、二泊三日を過ごさせていただきました。



第一日目は、瓜生 崇先生（東近江市玄照寺住職）の「一人なりとも人の信を取るが一宗の繁昌に候う」の講題でお話をいただきました。

「私は親鸞会に入っていました」と、ご自身の経歴に沿って、カルト教団に関わる事柄から始まりました。（注 著書に「さよなら親鸞会―脱会から再び念仏に出会うまで」がおります。）夜の班別座談会で各班を廻って頂いた時、も熱いお話は続き「念仏のみが真実である。人生の中で迷っている私も、苦しんでいる私も、仏様の願いから背をむけている私も、

そのままのあなたでいいと。撰取不捨の利益にあう。まずは、私一人が南無阿弥陀仏にあわせていただくことからだ。」と、まとめをいただきました。



二、三日目は武田 定光先生（江東区因速寺住職）の「一人一世界への覚醒」の講題でお話をいただきました。「寺、仏教は既に出来上がっている。しかし、本

当はまだ始まっていない。一人ひとりが、自分で作っていくのだ。世界と私は繋がっている。一人称で生きていると言えるのは、私一人ではない。その一人ひとりが一世界観を持つ。それは、人と比べることはできない。何かと比べることはできない。親鸞様は常に横並びにおられて、時代の流れの中で、今この時から、一人ひとりが真宗を体験し、味わい、表現しないと道ができない。ひとりが一世界に目覚め繋がっている。救いはいつでも、誰にでも、何処にもある。」

まさに今この様な、迷ってどうしようもない身の私に必要なであった講義ではなかったかと思えます。

この時この場所に、出逢わせて頂いたご縁に改めて感謝したいと思います。

坊守就任研修会・坊守就任式

四月一九日〜二〇日

第十五組 福勝寺 寺倉千秋

新緑が美しい四月、本山研修道場・和敬堂にて一泊二日の日程で、「坊守就任研修会」が行われました。

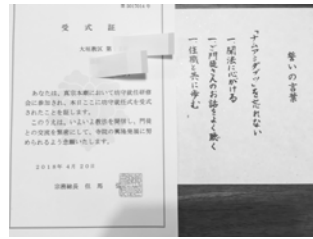
「坊守」として歩まれている方、これから歩みを始めようとする方々が共に集い、学び、私たちが身を置く「寺」が、宗祖親鸞聖人の教えに遇う聞法の道場となるよう語り合います。という趣旨のもと、全国から三十名の坊守さん（幼児さん四人も）が集いました。



講師の平原晃宗先生（綴喜郡井手町正蓮寺住職）は、坊守会連盟新テーマである「いま 寺に生きる〜問いととも歩む生活を〜」を踏まえ、「寺と相続」というテーマで講話を

されました。その中で、自分が坊守である前に、一門徒であるという自覚を持ち、自ら聞法する大切さを語られました。坊守は寺の管理にばかりに目が行くけれども、寺の中心であるご本尊を大切に、また聞法を大切にしてこそ寺の相続につながっていくのだと語られました。

五つのグループに分かれての班別座談会も大変得るものが多く、同じ「坊守」という立場の方々と共に感じあいつつ、あいながらの時間はとても有意義な時間でした。班ごとに「誓いの言葉」を作成し、御影堂での就任式での宣言は大変感動的でした。



(写真上：三班誓いの言葉と受式証)

最後に真宗本廟にて、鉄鉢料理をいただきました。貴重な経験ができて、素晴らしい研修会でした。



(写真右上…日程終了し緊張も解け三班を指導いただいた班担m先生と講師先生を囲んで。下…記念品のえんじ色真宗聖典ブックカバー)

若坊守研修会

第十七組 浄圓寺 片野 泉

五月十日から一泊二日の日程で、本山での若坊守研修会に参加しました。

講師の鶴見美智子先生から「アミダさまのお世話になっていますか」の講題で講義をいただきました。

講義の中で、先生ご自身をはじめ職場での宗教色を嫌っていたところから、仏教と向き合い、「人は仏様を信じようとするが、信じようが信じまいが仏様はすでに私達を信じてくださっている」の言葉から仏様を信じようと思ったとお話を聞きました。

また明治時代のある人の言葉として、「仏様ははたらきたい、だがはたらく場所が無く困っている、ならば仏を助けに行かねばなるまい」というものがありました。いくら仏様が助けたいと思っても、私達が大丈夫だと目もくれないのであれば助けられないのだと。いかにアミダさまにはたらいでもらうかがテーマなのだとということでした。

私はお寺で育ちましたが、仏教だけでなく宗教全般に抵抗感があり、ずっと仏教を自分とは関係ないもの、自分を助けてはくれないものと目をそらしてきました。私自身が仏様に目もくれず、自分から仏様の助けを遠ざけている状態だったのだと改めて

思い知らされました。

先生は「坊守の仕事は何か」の質問に対して、聞法すること、教えを知っていくこと、そうすることで日常に表れていくのではないかと話されました。若坊守であることの自覚を持ち、仏様に向き合い、少しでも真宗の教えを学んでいきたいと思えます。

研修中は同じ班になった全国の坊守さんと、講義について座談会をしたり、お寺での取り組みなどのお話が聞けて楽しく充実した時間が過ごせました。今回はこのような機会とご縁をいただきありがとうございます。

昨年竣工の和敬堂に続き同朋会館も六月工事完了。



教区坊守会研修会

第1回 2017年9月14日/参加者47名

テーマ：寺に身をおくものとして

-私はどこに立っているのか

講師：海法龍 師

(注「寺に身をおくものとして」は2017年度教区坊守会事業テーマ)

身をおく＝存在は結果としてある事実。お寺に身をおいているけれど、思いは別のところにあるか。聞法は自分への問いかけ。「誠に知りぬ。悲しきかな、愚禿鸞」には「積」がない。仏弟子の資格がないと親鸞聖人は悲しみ、さらに恥ずべし、傷むべしと。仏弟子の資格がないけども、お寺を預かっている。真宗の教えに背いているところがあるなら、痛みを感じるはず。「愛欲の広海に沈没し」愛欲とは自己愛。自己愛とは、痛い思いをしたくないという本音。自分への問いかけがこの研修会の場の意味。



第3回 2017年11月15日/参加者35名

テーマ：月参りの作法(於高須別院)

講師：高橋教信 師



御文の中で自分が一番好きなのは、第一帖「親鸞は弟子一人ももたず」「ただ如来の御代官をもうしつるばかりなり」。月参りの姿勢の基本は「御代官」としての自覚。お定飯の場を私に授けていただいた、ありがたい、お勤めを聞いていただけるという気持ち。月参りは、衣を着たものがやらせてもらうという気が大切。

第4回 2018年2月20日/参加者38名

テーマ：お寺を開くコミュニケーション

-坊守さんができること

講師：護西賢 師

お寺が予防的カウンセリング(仲間、信頼関係、傾聴、感情の受容)に関わるべきでないか。



第2回 2017年10月10日/参加者34名

テーマ：呼ばれてみれば

講師：譽田和人 師

文字で、理屈で、知識で聞法するのは「かまぼこ聞法」。感情を伴う体験は深い引き出しの中にある。私はいつまで生きるかわからない。それに心当たりができる、気付くというのが聴聞。「称名念仏」というが、私たちが阿弥陀仏を呼んでいるのではない。お念仏は阿弥陀仏からの呼びかけ。(注)

「名」の語源は、中国語の辞書には夕べに口に出すこととある。誰だ？俺だ！俺ではわからない！そこで名乗った時に、その人と私の間に関係性ができる。関係は喜びでもあり、苦しみでもある。名前を呼ばれ続けるのが生きること。「生」＝ライブの音で会うのが生きること。お寺は人の声が聞こえるところであるべきではないか。(注 ご講義をまとめていたら、本願招喚という言葉に出会いました。そのことを言っておられたのかなと思いました。間違っていたらすみません。)

第5回 2018年3月26日/参加者31名

テーマ：寺を開く

-私がこれから大事にしたいこと

講師：秦信映 師

お寺は何のためにあるのか。お寺は誰のものか。私たちが真宗門徒になれているのか。寺を開くとは=公の聞法道場へ。坊守の使命と役割=坊守としての公の座の確認、共に聞法者となる。門徒お一人お一人のもとへ、どうしたら親鸞聖人のみ教えを伝えることができるかをいつも課題とする。(注 冒頭、1981、s56宗憲改正に至る背景を、実体験として思いを込めてお話いただきました。)



第6回 2018年5月25日/参加者22名 テーマ:寺族・庫裏・坊守…その実は 講師:竹中照真 師

年度最後の研修として「寺に身をおくものとして」に立ち返る。浄土真宗の寺に生まれたから、住んでいるからなんまんだぶか？正信(念仏)偈は、念仏が正しいという偈。「私」の思いはない。「はい」しかない。念仏が働くから、煩惱具足の自分(寺に身をおくといいながら、その実は、自分の都合ばかりのジゴチューで、思い通りにいかないとつらい。)に出会うことができる。(注 お話の端々に去る3月に命終された五辻文昭師を悼むお気持ちが感じられました。)



列座室

関係者のみ入室可。

2 階

ありがたい御本尊のおられる内陣をおそるおそのるのぞき込み、高い天井を見上げて、なんて立派なと賛嘆するだけでなく、本堂の後ろにあるお部屋その他のお部屋も探検してみました。



指導室

階段を経て
大垣教務所へ

大垣別院 事務所

いつも優しいスタッフが笑顔で対応してくれます。

1 階

坊守会の別院行事協力で参加させていただいたお齋配膳。なんといつでも女人講の方々の厨房での作業にびつくり。大きな鍋、大きなコンロ、大きなシンク。まるで給食センターのようです。報恩講のお齋は三日間で延べ九四六食。目が回りました。小豆と里芋の「いとこ煮」もふるまわれました。

そうだったのか！ 大垣別院！

普段から住職は「別院へ行ってくださると出かけているけど、坊守会の役員になるまではとんとご縁のなかつた大垣別院。十月の住職・坊守追弔会そして十二月の報恩講と、裏方のお手伝いをするにも、どこになんという部屋があるのかがわからず右往左往。そこで大垣別院を、普段お邪魔することのないバックヤードも含めてをご紹介します。



以前の本堂

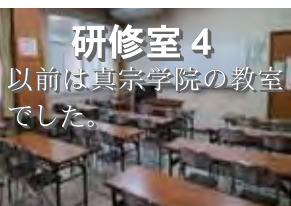


現在の本堂

本堂一口メモ：大正七年に完成した本堂（上）は昭和二十年の空襲で焼失し、昭和四十七年に現在の本堂が再建されました。

そもそも 大垣別院は真宗大谷派大垣別院開闢寺（「せん」という字が難しい。）の略称。通称は大垣御坊、大垣のごぼさん。大垣別院の住職は「真宗大谷派の僧侶及び門徒を代表する門主」だが、「輪番が職務を代掌」する。が、輪番は、大垣教区の教務所長でもあるのでややこしい。一口に事務所といっても隣り合う教務所と別院の事務所の二つある。さらに同じ敷地の中に大垣真宗学院の校舎、かわいい園児さんの声の聞こえる幼稚園もある。

物置



研修室 4

以前は真宗学院の教室でした。

研修室 3

子ども報恩講のお餅渡し場所でした。

研修室 2

報恩講では保育室に。

東側入口



客殿

輪番所

三の間

二の間

一の間

6畳の一～三の間

花部屋



法中控室



十字の間
お内仏もあります。

本堂の真後ろにある、とても細い廊下です。御本尊の後ろだと思えば少し緊張します。

本堂
126畳の外陣と各20畳の二つの余間を含む内陣があります。

内陣

内陣の御本尊は阿弥陀如来の坐像です。向かって右側余間には代々のご門主が、向かって左側余間には聖徳太子の御坐像と七高僧の軸が掛けてあります。

外陣

トイレ・浴室

厨房 お齋作りの場所。すべてが大きい。
(写真を撮る余裕なくイメージ画像です。)



輪番室
目印が扉というくらいに立派な扉。

研修室 1
昨年子ども報恩講は悪天候だったのでここで餅つきをしたよ。

西側入口

トイレ

収納 **納骨堂**

広間

68畳。報恩講、春の法要ではお齋の会場にもなります。

物置 1から4研修室は普段はパンダカ・フェや絵画・短歌等の集まりの貸会場になっています。

第五組 浄真寺 林 恵子

東海連区坊守研修会に初参加し、充実した二日間を過ごさせてもらいました。

坊守とはいえ、名ばかりで仕事を理由に研修会等、逃げていた私には、少し勇気がいり、行くまでとても不安でしたが、日頃、話し合ったり、聞く機会の少ない私には、絶好のチャンスでした。

座談会では、寺に身を置くもの同士、日々の生活で感じたこと、現在突きつけられている「寺離れ」「墓じまい」など、数々の大きな問題と直面していること、そして、今回の講題である「わたしは〇〇のために生まれてきました」について、熱く語り合いました。

「〇〇のために」それは、家族？旦那？子供？孫？それとも、阿弥陀様……。私たち座談会の席でも色々ありましたが、自分のためだと思ふと問われた坊守さんがみえ、もし、住職が病気になるたら、もちろん心配する、声もかけるし、看病もする、でも、最後は自分が困る、だから、住職には、元気でいてもらわなくては困る、という意見でした。確かに……。なるほど……。人によっても、その時その時で、〇〇が変化していくのではないかと色々考えさせられ、とても盛り上がりました。

二日目の講義では「聖徳太子と親鸞聖人」でした。歴史的背景を交えながらの講義は、



を知らませんでした。

〇十年ぶりに学生時代を思い出し楽しい講義でした。恥ずかしながら、真宗聖典の最後の締めには聖徳太子の十七条憲法が記載されていることこれを機に少しずつ

東海連区坊守研修会報告

5. 15-5. 16 高山市ひだホテルプラザ

研修テーマ いま寺(ここ)に生きる

— 問いとともに歩む生活を —

講師 三島清圓 氏

講題 わたしは〇〇のために
生まれてきました。

勉強しなくては、という思いです。

今回の講題は研修から戻ってきた今日も「何のために生まれてきたのか?」「何をしに生まれてきたのか?」と、心の中で自問自答を繰り返す日々を送っています。講師の三島先生が、言い切れないところに意味がある、永遠の謎である、問いこそが自分



2018年度は岐阜教区当番
多数のご参加を



「ごぼうシスターズ」(高山教区若手・若手坊守)による歌と演奏

安を吹き飛ばしてくれた、このご縁、出会いに感謝したいと思います。

閉会後も大垣教区の参加者でプチ贅沢な昼食、市内観光、高山別院と貴重な体験ができ、参加して良かったなあと、はじめの不安

の人生だ、と言われ、つい現実逃避しがちですが、お寺に嫁いだ以上、腰を据えて、今置かれている状況や立場など、もっと真剣に受け止めて生きていかねばと思います。初参加し、各教区の坊守さんとも仲良くなり、料理も大変美味しく、お風呂も最高。

坊守会一日研修に参加して

第十八組 統攝寺 鶴泉 恵美

紫陽花が大輪の花を咲かせる六月十五日、三七名で碧南市の清沢満之師のお寺西方寺を訪ねました。周辺は信仰の厚い土地柄で、色々な宗派の大寺院が集まっています。

最初に本堂にて「清沢先生讃仰和讃」でお勤めをしました。和讃は弟子の暁烏敏さんが満之師の一生を五四首にされたものです。絶対他力の大道、他力の救済、我が信念という大切な文章も収まっています。

その後、ビデオで満之師の一生を視聴し、西方寺坊守様より西方寺の歴史等について拝聴しました。



寺の端の海に近い二畳ばかりの板張りの部屋で隔離され、暮らしておられたそうです。狭く、急な階段を上った二階の書齋が唯一



満之師のご命日が六月六日ですので、六月の間は左余間に法名軸をかけて拜んでおられます。書院には満之師の終焉の部屋がありました。結核のため西方



二千二百冊もの蔵書等が展示してありました。



して帰路につきました。

今回の研修で、明治の世に確たる宗教的信念に生きられた清沢満之師の気高いお姿を学ぶことができました。また、実際に過ごされた地に赴き、肌で感じられたことが大変多く、感謝いたします。



午後は、日本最古の本みりん醸造元の工場、西尾の製茶工場見学を

の憩いの場であったそうです。記念館には、三九歳という短い生涯であった満之師の銅像、肖像画、直筆原稿、

【清沢満之師とは】1863年生まれ 1903(明治36)年寂 明治時代を代表する宗教家で、近代的仏教信仰の確立をめざす「精神主義」を提唱した。尾張藩士の息子。明治11(1878)年真宗大谷派で得度し東本願寺育英教校に入学。同15年東本願寺の留学生として、東京大学に入り、哲学科を卒業後大学院に進む。常に首席で特待生であり、井上円了らが設立した哲学会に参加して『哲学会雑誌』の編集に携わった。同21年、東本願寺の要請により、東本願寺が依託経営していた京都府尋常中学校の校長に就任、この年清沢やす子と結婚して、愛知県大浜西方寺に入寺した。このころから、東本願寺の教学振興のための教育制度改革を目指し、同志と共に当局へ建言を行う一方で、自らの宗教哲学の実践として、極度の禁欲生活に入り、同27年結核を患って療養生活をおくる。同28年、教学を中心とした東本願寺学事改革を建言、拠点を京都白川におき、『教界時言』を発刊、運動の前進を図ったが、当局や反改革派の運動切り崩しにより頓挫。同32年東本願寺より真宗大学(大谷大学)の運営を依頼されると、同大学の東京移転や当局の不介入などを条件に応じ、同34年に学監(学長)に就任して、理想的教育の実現に邁進したが、翌年には学校騒動によって辞職した。この間、同33年には清沢を信奉する多田鼎、佐々木月樵、暁烏敏らと求道の共同生活を開始、その宿舎を「浩々洞」と名付け、雑誌『精神界』を刊行して「精神主義」を提唱した。「精神主義」は近代的仏教信仰の確立を目指す宗教運動として高い評価を受けているが、歴史的には近代天皇制下の現実を無条件に肯定する「従属の論理」であるとの批判もみられる。著書は『清沢満之全集』8巻がある。(文：大谷大学27代学長草野顕之)(抜粋)

本山春の法要参拝 上石津町同朋子どもの集い

上石津町「同朋子どもの集い」の歴史は、三十年余り前、時、多良地区の大谷派寺院が、共同して、小学校卒業生・新中学生を対象に本山春の法要参拝の一日バスツアーを始めたことに遡ります。二十年余り前から、上石津町真宗寺院連合会（お西さんも含めた二五カ寺）が主催し、町内四つの小学校の卒業生全員に参加を呼びかけ、行先は京都（東本願寺、太秦映画村）、十二組の住職・若院が引率するというかたちがすっかり定着しています。

本年は、四月二日月曜、午前八時に五つの集合場所から順次子どもたちがバスに乗車。参加者数は四三人の卒業生のうち二三人。保護者の方が勧めるというよりは、友達同士で誘い合って来ているようです。

「集い」のテーマ・趣旨は「京都 本山・親鸞さんを知ろう」。

「本山にお参りする」とによって、親鸞聖人を知り、先祖の方々の思いを尋ね、自分にながっている『いのち』の歴史を探ろう」とい



うことで、往路のバスでは、早速スタッフ
が、紙芝居形式の仏教クイズ。



写真撮影禁止ですが記念にパチリ

本山到着、
まず阿弥陀堂
にお参りした
あと、いよいよ
御影堂の春
の法要に参拝。
厳かさに戸惑
いつつも、正
信偈までお勤
めました。



そのあと、
スタッフの説
明に耳を傾け、
諸殿参観。最
後は、あかほ
くん、鸞恩
くん、蓮ちゃ
んと記念撮影。
昼食をはさん
で、太秦映画
村で楽しんで
あと帰路に着
きました。

中学入学直前の春休み。新しい生活にちょっ
と不安もあるけれど、友達と一緒に充実し
た一日を過ごせました。

ネットで話題の伝道掲示板

昨年五月、「門前にデーモン閣下のお言
葉を掲げるお寺」と大垣教区大泉寺の伝道
掲示板がネットで話題になりました。大泉
寺御住職はSNSに堪能で、伝道掲示板も
ネット上で公開。お寺らしからぬ引用元が
反響を呼びました。他のお寺でも御住職に
はそのつもりはなくても「うちの近所にあ
るお寺。そこに毎月貼りだされる言葉がい
いんだよね。」で、パシヤリと写して、
それがネットで拡散という例も。御住職自
作の言葉あり、引用元も法語に限らずさま
ざまですが、伝道掲示板の言葉を心を込め
て選んだ御住職の思いが伝わります。

東本願寺HP内でも掲示板伝道の取組が紹
介され、大垣教区教報にも「今月の掲示板」
コラムが登場しました。大泉寺御住職は伝
道掲示板について「ググらなくても主旨の
伝わる文面、意味は深くても理解できる内
容」を心がけておられるそうです。別の月
の「死んだら終わりですか」という言葉に、
思わず考え込みましたが、後に宮城県名取
市閑上地区の亡くなった十四人の中学生の
慰霊碑（現在移設の隣に置かれた机に書か
れたあるお母さんのメッセージ）と知り、問
いかけの深さ、重さにたじろぎました。

2018年度大垣教区坊守会事業計画

テーマ いま寺(ここ)に生きるものとして

1 坊守研修会 (全5回)

- ◆第1回 2018年9月10日(月)
講師：平等 良香氏
(福井教区徳永寺住職・准堂衆)
内容：女性僧侶として・衣の扱い
 - ◆第2回 2018年10月18日(木)
講師：譽田 和人氏 (大垣教務所長)
内容：お寺に住むということについて
 - ◆第3回 2018年11月7日(水)
講師：河合 祐介氏 (株式会社山口屋)
内容：真鍮仏具のおみがきについて
 - ◆第4回 2019年2月1日(金)
講師：安田 英樹 (第16組教覺寺住職)
内容：声明講習
 - ◆第5回 2019年3月1日(金)
講師：三島 清圓氏 (高山教区西念寺住職)
内容：未定
- 開催時間：毎回午後1時30分より
※受付開催午後1時より
- 会場：大垣教区同朋会館講堂 (第1, 2, 4, 5回)
高須別院同朋会館広間 (第3回)
- 参加費：1回500円

2 住職・坊守追弔会

- 日時：2018年10月18日(木)
会場：大垣別院本堂
内容：追弔法要・法話 (講師：龍 茂樹氏)

3 大垣・高須別院報恩講・春の法要参詣協力

- ◆大垣別院報恩講
2018年12月10日(月)～13日(木)
- ◆高須別院報恩講
2018年12月16日(日)～19日(水)
- ◆大垣別院春の法要
2019年4月24日(水)～25日(木)
- ◆高須別院春の法要
2019年3月

4 一日研修会

- 期日：2019年6月開催予定
※日程・参加費等決まり次第お知らせします。

5 教区坊守委員会 (総会)

- 期日：2018年7月25日(水)
午後1時30分より
場所：大垣教区同朋会館講堂
対象：各組坊守会正副会長

6 教区坊守会常任委員会

- 期日：適宜開催

7 大垣教区「坊守会だより」

- 発行：年1回 (毎年8月1日)
部数：500部

8 東海連区坊守研修会 (連区坊守会事業)

- 期日：2019年5月15日(水)～16日(木)
当番教区：岐阜教区
※日程・参加費等決まり次第お知らせします。

9 真宗大谷派坊守会連盟 (坊守会連盟事業)

- ◇坊守会連盟「坊守研修会」
※坊守会連盟結成60周年記念事業
期日：2019年4月9日(火)～11日(木)
会場：真宗本廟 (研修道場・和敬堂)
募集：7人
- ◇坊守会連盟「若坊守研修会」
期日：2019年4月24日(水)～25日(木)
会場：真宗本廟 (研修道場・和敬堂)
募集：2人

10 その他

- ◇坊守就任研修会・坊守就任式
期日：2019年3月7日(木)～8日(金)
会場：真宗本廟 (研修道場・和敬堂)

《お知らせ》

『1・3・4』の事業につきましては、教区坊守会主催の事業でありますので、坊守さん、前坊守さん、若坊守さんふるってご参加いただけましたらと存じます。

2017年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出決算

	自 2017年7月 1日	
	至 2018年6月30日	
歳入総額	2,652,938 円	
歳出総額	2,096,476 円	
差引残高	556,462 円	

2018年度大垣教区坊守会会計 歳入歳出予算

	自 2018年7月 1日	
	至 2019年6月30日	
歳入総額	2,633,000 円	
歳出総額	2,633,000 円	

歳入の部

項 目	決 算 額
1 年 会 費	706,000
2 坊 守 学 習 会 費	105,500
3 一 日 研 修 会 会 費	301,000
4 連 区 研 修 会 参 加 費	288,000
5 教 区 助 成	500,000
6 連 盟 助 成	50,000
7 雑 収 入	6
8 繰 越 金	702,432
合 計	2,652,938

歳入の部

項 目	決 算 額
1 年 会 費	706,000
2 坊 守 学 習 会 費	100,000
3 一 日 研 修 会 会 費	320,000
4 連 区 研 修 会 参 加 費	400,000
5 教 区 助 成	500,000
6 連 盟 助 成	50,000
7 雑 収 入	538
8 繰 越 金	556,462
合 計	2,633,000

歳出の部

項 目	決 算 額
1 連 盟 会 費	427,264
2 報 恩 講 費	30,000
3 学 習 会 費	233,642
4 一 日 研 修 会 費	335,645
5 連 区 研 修 会 参 加 費	499,666
6 災 害 復 興 支 援 費	0
7 各 組 研 修 助 成 費	360,000
8 派 遣 助 成 費	44,400
9 慶 事 ・ 饞 別 費	0
10 会 議 費	32,173
11 通 信 印 刷 諸 費	133,686
12 予 備 費	0
合 計	2,096,476

歳出の部

項 目	決 算 額
1 連 盟 会 費	428,000
2 報 恩 講 費	30,000
3 学 習 会 費	300,000
4 一 日 研 修 会 費	500,000
5 連 区 研 修 会 参 加 費	450,000
6 各 組 研 修 助 成 費	360,000
7 派 遣 助 成 費	200,000
8 会 議 費	40,000
9 機 関 紙 発 行 費	120,000
10 事 務 費 (災害復興支援費・慶事饞別費廃目)	30,000
11 予 備 費	175,000
合 計	2,633,000

編 集 後 記

坊守とは、寺に身をおくものとはについて考える機会にしたいと思っています。(谷)

機関紙作りの経験はありますが、坊守さんの機関紙というのは初めてです。二四号をお手本に編集させていただきましたが、教区坊守会の皆様が集めてくださった思いと知恵を生かされたのかはなはだ自信がありません。(菅沼)

坊守初心者の自分が、教区の編集委員という大役をいただきました。この御縁に感謝をし、